

御小 図書館だより



No.2 司書教諭 宮田 留美

第60回青少年読書感想文全国コンクール課題図書を紹介

☆低学年の部（１・２年生）☆

「まよなかのたんじょうかい」西本鶏介・作 渡辺有一・絵

さきちゃんの誕生日なのに、仕事が遅くなってなかなか帰ってこないお母さん。何かあったのでしょうか…。思いやりにあふれた絵本です。

「どこかいきのバス」井上よう子・作 くすはら順子・絵

家出したぼくの前にあらわれた「どこかいきのバス」。乗ってみると、かたちを変えて無人島までつれてってくれた。その正体は？

「ミルクこぼしちゃだめよ！」スティーブン・ディヴィーズ・文 クリストファー・コー・絵 福本友美子・訳

おとうさんにミルクをとどけることにしたペンダ。おわんをあたまにのせ、川をわたって、山をのぼって…。こぼしちゃだめよ、１てきも！

「ひまわり」荒井真紀・文／絵

小さな種から黄色い大きな花が咲く、ひまわりのひみつ知りたいな！自然のふしぎにみちたひまわりの一生。おどろきと感動いっぱいの絵本。

☆中学年の部（３・４年生）☆

「ともだちは、サティー」大塚篤子・作 タムラフキコ・絵

「おまえは村に残って仕事をしてみよう」はじめての海外で、ネパールの少年と二人で放牧することになったツトム。いったいどうなる！？

「ただいま！マラング村 タンザニアの男の子のお話」ハナ・ショット・作 佐々木田鶴子・訳 齊藤木綿子・絵

お兄ちゃんと一緒におばさんの家をとびだしたツツ。でも、町で迷子になってしまい…。ひとりきりで頑張ったタンザニアの男の子の物語。

「ちきゅうがウンチだらけにならないわけ」松岡たつひで・作

生物はみんなウンチをするのに、地球はウンチであふれない？！ウンチが、自然の中でどのように役立つのかを楽しく理解できます。

「よかたい先生 水俣から世界を見続けた医師 原田正純」三枝三七子・文／絵

水俣病事件から５０年もの間、「よかたい、よかたい」といって、立場のちがいを越えて患者とわかりあおうとした医師、原田正純先生の物語。

☆高学年の部（５・６年生）☆

「ふたり」福田隆浩・著

本の中に隠れているミステリー作家のひみつをさがせ！長崎県在住の現役教師が描く、図書館を舞台にした謎解きと友情の物語。

「マッチ箱日記」ポール・ライシュマン・文 ハヴラム・バトラー・絵 島式子／島玲子・訳

読み書きができなかった少年が、思い出をマッチ箱に詰めていく。貧乏のなか、希望を捨てずに生きた、あるイタリア系移民の家族の物語。

「時をつなぐおもちゃの犬」マイケル・モーパング・作 マイケル・フォアマン・絵 杉田七重・訳

犬のマンフレートが導いた奇跡の再会…。戦争の悲劇と友情の記憶が長い時をへて子どもたちに語られる。切ないほどにあたたかい感動の物語。

「カブトムシ 山に帰る」山口進・著

人間が自然を変えたことで、カブトムシが小型化した？！昆虫たちの変化から、人と自然が共に豊かにあるための方法が見えてくる。

※図書室にも置いてあります。市立図書館アスパルにも特設コーナーが用意されています。第１回親子読書週間（６月９日（月）～１５日（日））もあります。興味のある人はぜひ読んでください！